

職員の給与等に関する報告及び勧告に当たって

令和元（2019）年10月9日

栃木県人事委員会委員長 五家 正

本日、人事委員会は、県議会及び県知事に対して、職員の給与等に関する報告及び勧告を行いました。

給与関係については、職員給与と民間給与を比較した結果、月例給、特別給（ボーナス）のいずれについても職員が民間を下回っていることが明らかになりました。そのため、月例給については、人事院勧告に準じて若年層の給料表の引上げ改定を行うとともに、特別給についても、支給月数を0.05月分引き上げ、勤務実績に応じた給与の推進のため勤勉手当に配分することとしました。また、住居手当について、人事院勧告に準じて所要の改定を行うこととしました。

そのほか、獣医師を安定的に確保する観点から、他の都道府県の状況を考慮し、獣医師に対し初任給調整手当を支給することとしました。

公務運営関係については、公務員倫理の徹底、勤務環境の整備、人材の育成・活用並びに定年の引上げ及び雇用と年金の接続について報告しました。

人事委員会の給与勧告制度は、労働基本権制約の代償措置であり、職員の給与を社会一般の情勢に応じた適正なものとする機能を有しております。また、職員の給与を人事委員会勧告により適切に決定することは、職務に精励している職員の努力や成果に的確に報いるとともに、組織活力の向上、労使関係の安定などを通じて、行政の効率的、安定的な運営に資するものであります。

職員においては、全体の奉仕者としての自覚と高い倫理観を持って、県民の信頼と期待に応えられるよう、公正で効率的な職務の遂行に努めていただきたいと思います。

県民各位におかれましては、人事委員会の給与勧告制度の意義と、職員が行政の各分野においてそれぞれの職務を通じ県民生活の安定・向上に寄与していることについて、十分な御理解をいただきたいと思います。